

タイトル	献辞
著者	魚住, 純; UOZUMI, Jun
引用	北海学園大学学園論集(178): i-ii
発行日	2019-03-25

# 献辞

工学部長 魚 住 純

上浦正樹先生は、本年3月31日をもって退職されることになりました。学園論集第178号が退職記念号として発行されるにあたりひとこと送別の辞を述べたいと思います。

上浦先生は、昭和51年3月に東京工業大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程を終了後、同年4月に日本国有鉄道に入社されました。その後、国鉄民営化により、昭和62年4月に日本貨物鉄道株式会社に異動となり、平成9年9月に北海学園大学工学部に土木工学科の教授として着任されました。また、平成8年7月に長岡技術科学大学より、博士（工学）の学位を取得されています。本学着任後は、学部では測量学Ⅰ、測量学Ⅱ、測量実習、地盤工学などの科目を、また大学院建設工学専攻では、地盤工学特論、鉄道工学特論、土木工学特論ゼミナールⅠ、Ⅱなどの科目を担当されてきました。その間、大学院修士課程の学生13名の論文指導を行っています。さらに、専攻主任、学科主任など多くの委員を担当され、さらには平成25年からの4年間、学校法人北海学園評議員を兼任、平成26年4月からの3年間、工学研究科長を兼任されています。また、工学教育のプログラム認定制度であるJABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education）への認定申請を社会環境工学科（平成17年に土木工学科から学科名称変更）が行うに際して、最初のプログラム責任者として尽力されました。

本学着任後は、鉄道に関する分野を中心に精力的に研究に取り組みられました。その一つは、鉄道の駅らしさの研究です。現在の札幌駅は、複合商業施設と併設され、平成15年に完成しましたが、計画段階において先生は、鉄道の駅らしさを市民がどのように感じるかについて「鉄道の駅らしさの研究」としてまとめられました。札幌駅の建設委員会の委員でもあった先生は、この成果に基づいて、駅として認識される第一の要素は時計であるとして、複合施設の外壁に時計を設置することを提案しました。この提案により、全国的にも珍しい大時計が建物の前面に設置された駅兼複合商業施設が作られました。

鉄道の線路はバラスト（砂利）の上に設置されているものが多くみられます。そのようなバラスト軌道やアスファルト舗装における路盤の剛性評価に関する研究では、従来大掛かりな測定装置が使われていましたが、先生はそれに代わる小型FWDと呼ばれる簡易な装置を用いたシステムを構築しました。それが鉄道路盤の建設における技術標準に採用され、新幹線の路盤建設などにも利用されています。

バラストを突き固める軌道では、レール面に軌道狂いが生じやすいため、その解析は脱線原因の解明や軌道狂いの補修工法において重要ですが、先生はウェーブレット解析と呼ばれる周波数解析を用いてこの問題に取り組み、その成果はJR総研やJR各社において列車の異常動揺箇所の究明とその除去や貨物列車の脱線原因の解析に用いられています。

線路のまくらぎには、木製や鉄製などがありますが、鉄製は木製の5倍以上の耐用年数があり、JR各社や製鉄所に導入されています。先生は、鉄まくらぎの底部の面積が他のまくらぎよりも大きいことに着目し、車輪からまくらぎに掛かる荷重の分散効果の研究を進め、その結果に基づいて、分岐点や一般の軌道でまくらぎ間隔を拡大できる範囲を提案しており、その結果はJR貨物の設備基準に反映されています。

これら一連の研究に貫かれているのは、安全性と効率性が両立した、人に優しく人に愛される鉄道に向けた技術的貢献という強い思いではないかと拝察します。これらの研究を含む成果は、11編の著書をはじめ、国内外の論文誌、「工学部研究報告」、「工学研究」、「開発論集」、「学園論集」に掲載の多くの研究論文、および口頭発表として発信され、その多くが有効な技術として実際の鉄道に活用されていることは、本学として大変誇らしきことと思います。

このような研究業績を背景として、学外においても、国土交通省主催の鉄道施設の技術基準および北海道新幹線に関する各種委員会の委員長もしくは委員、土木学会舗装工学委員会委員長、JR北海道再生委員会の委員、警視庁の鉄道事故に関する特殊犯罪の技術顧問などを歴任されています。また、他大学のJABEE審査の審査委員長、さらには工学部の地元である山鼻南小学校スクールゾーン実行委員会のオブザーバーなども引き受けられるなど、大変幅広い社会活動をされています。

このように、上浦先生の本学における21年余りにわたる教育、研究、そして学内外の教育行政上での貢献は極めて大きく、本学の発展に多大な功績を残されたことに対して、心より敬意を表します。今後とも、本学の発展にむけてご指導ご鞭撻くださいますようお願いいたしますとともに、先生のご健勝をお祈りして、はなむけの言葉とさせていただきます。